

MDPRO ミニコラム：米中貿易摩擦にみる中国の医療機器産業

2018年も12月になり、1年を振り返る季節となりました。経済面では年初より米国のトランプ政権による中国、メキシコ、カナダ等との二国間の通商交渉が行われた年といえます。

特に米国と中国の間では3月以降、相互に関税の引き上げ措置が発動され激しい応酬がなされてきました。12月に開催されたG20における首脳会談では新たな関税引き上げ措置の発動を暫時停止し、90日以内に新たな協議を開始するとされた一方で、同日に中国通信企業最大手の副会長がカナダで逮捕されるなど、現在進行形で激しいやり取りが続いています。

激化する米中対立の根幹には中国政府が2015年に発表した製造業強化へのロードマップ「中国製造2025」があるとされています。「中国製造2025」は既に量の面で製造「大国」となった中国が先端技術の領域においても世界をリードする「強国」になることを目指し、2025年までに日米独といった技術も含めた製造強国の「トップグループ」に入り、2035年時点でトップグループの中位に、そして建国100周年にあたる2049年にはトップクラスになるとの目標とした計画です。この計画は米国にとっては通商だけではなく、技術領域における自国の優位性をも脅かすものと捉えられているようです。

「中国製造2025」を対象とした米国の主な制裁品目と対象品目の中国からの輸入額は下表のとおりとなります。「中国製造2025」では10の重点分野が掲げられていますが、次世代情報技術や電気自動車等の新エネルギー自動車と並び、バイオ医薬品及び高性能医療機器も重点分野の一つにあげられています。

中国製造2025の重点産業分野	対中制裁の主な対象品目	米国の中国からの輸入額
次世代IT	—	—
産業用ロボット	産業用ロボット、工作機械	105億ドル(産業機械)
航空・宇宙	航空機、航空部品、通信衛星	10億ドル(航空機・部品)
海洋エンジニアリング	船舶、タンカー	1600万ドル(船舶)
先進鉄道装置	鉄道車両、鉄道部品	2億5800万ドル(鉄道設備)
省エネ・新エネルギー自動車	乗用車、商用車	20億ドル(乗用車・商用車)
電力装置・設備	タービン、発電機	70億ドル(発電機)
農業機械・設備	農業・林業機械、部品、農業用乾燥機	11億ドル(農業機械)
新材料	化学品	92億ドル(化学品)
バイオ医療・高性能医療機器	超音波診断装置、カテーテルなど医療機器	47億ドル(医療機器)


(注)輸入額は対象品目に近いものを記載

出所：『日本経済新聞』2018年4月5日朝刊3面「米中摩擦 我慢比べ」

医療機器の米国の中国からの輸入額に注目すると、47億ドルと重点分野のなかでも5番目に大きい金額となっています。この金額は日本の米国への医療機器の輸出額(約11億ドル)と比較しても4倍以上の規模となっており、中国の医療機器産業はすでに製造「大国」から製造「強国」への過渡期の段階にあると言えるかもしれません。

医療機器における対中制裁の主な対象品目がカテーテルなど、日本の主要輸出品目と重複することから、米中間の対立が長期化した場合は日本の医療機器企業も米国市場での販売戦略等を再構築する必要が生じるかもしれません。

(医療機器政策調査研究所 木村 健一郎 記)

医療機器政策調査研究所からのお知らせ  @JFMDA_MDPRO
Twitterで医療機器産業に関連するニュースを配信中。医機連トップページからフォローできます。